ブラシレスの走りを激変させるキーワード

イニシャルスピード使いこなし術

ブラシレスユニットはESCの設定で、モータの特性をガラリと変えることができる。そこで意外と見落としがちなのがイニシャルスピードのセッティングだ。タキオンはアグレッシブドライブエフェクタ「TAO」を使用することで、この設定が%単位で細かく設定できる数少ないスピードコントローラである。数値だけでは計り知れないイニシャルスピードの有効な使い方を紹介しよう。

●イニシャルスピードとは?

スロットル初期及びニュートラルからの再加速時のスタートパワーを0～50%の範囲で設定できる。単純に数値が小さいとスタート初期のスピードが緩やかになり、逆に数値を大きくすると初速を上げることができる。文章にすると簡単なことなのだが、実際に走行すると、その意味合いは使用するカテゴリーによってまるで違ったものになる。

●調整のポイント

コーナリングスピードが速いマシンほど、イニシャルスピードの数値を大きく設定すると、滑らかに加速できる。反対にこの状態で数値を下げていくとパンチあるフィーリングになる。また、クローラーのように超低速域を頻繁に使うカテゴリーでは、数値を下げたほうが繊細なコントロールができる。このように、走行するシチュエーション、カテゴリーによってイニシャルスピードがフィーリングに与える影響はまるで違うものになるから、実際に走り、フィーリングをあわせて調整する。

新色の“ホワイトカーボン”も登場した、キーエンスが誇る高性能ブラシレスESCがタキオン。センサードタイプらしいリニアなコントロール特性が自慢のユニットである

●Brushless E.S.C
TACHYON[タキオン]
寸法:W31×D30×H19㎜
重量:35.0g／FET数:36個
ON抵抗値:0.24mΩ／対応モータ:無制限
■価格2万9925円
（ホワイトカーボンのみ3万450円）
カラー:シャインブルー/パールブラック/シャインパープル/カーボン/ホワイトカーボン

●Aggressive Drive Effector
TAO[タオ]
寸法:W90×H40×D11㎜／重量:36.0g
電池:Li-Po DC3.7V 250mAh／ディスプレイ:1.6インチ
充電時間: 約3.5時間　使用時間: 約5時間（連続使用時）
■価格1万290円
タキオンの隠されたポテンシャルを引き出してくれるコマンダー。今回はイニシャルスピードにスポットを当てその全容を公開する

●走行特性の変化

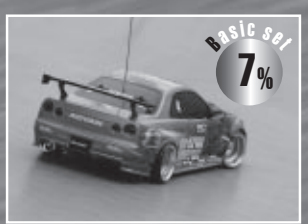
前項の解説と真逆になってしまうのだが、一般的なオンロードカー（ツーリングカー、F1など）の場合、イニシャルスピードの値が小さいと、初速と中高速のメリハリがつき、スロットルレバーの操作量に対し速度の変化が大きくなるので、パンチあるフィーリングになる。逆に大きく設定するとスロットルレバーの操作量に対し、初速から中高速の速度変化が少ないため滑らかなスロットルフィーリングになる。こうした、微妙な領域のセッティングを発せるのが、キーエンスのブラシレスシステムの優れたところである。

カテゴリー別 イニシャルスピード基本設定数値!

ON ROAD

ハイスピードでサーキットを駆け抜けるツーリングカーや、トゥエルブではコーナリングスピードも高い。中高速域を多用するこのカテゴリーにおいては、イニシャルスピードをあげることで滑らかなスロットルワークが得られ、コーナーのつながりもスムーズとなり、まさにFan to Drive！

DRIFT



現在主流のフルカウンタードリフト走行。ケツカキ仕様のマシンでは、初期の微妙なスロットルワークがキーポイント。そんな場合はイニシャルスピードを下げるとコントロールしやすくなる。その値はコンディションに応じて調整しよう。

ROCK CRAWLER

極低速での微妙なスロットルワークが要求される特殊なカテゴリーなので、イニシャルスピードを小さく設定することで初速時の繊細なコントロールが可能となる。岩場をガッチリつかんで、難しいセクションを攻略するのだ。

OFF ROAD

ジャンプなど3D的なアクションで独特のテクニックが必要なオフロードマシン。ドライバーの好みによってフィーリングが異なるものだが、メリハリあるパンチを重視したいときはイニシャルを下げ、マイルドなフィーリングにしたい場合は上げると良い。

KEYENCE NEWS

携帯サイト運用開始！サーキットからでも取扱説明書が確認できるなど便利機能が満載。

こちらのQRコードからアクセスしてみよう！

キーエンスのブラシレスESC、タキオンはオプションのアグレッシブドライブエフェクタ「TAO」と併用することで、イニシャルスピードの設定が可能である。これまであまりクローズアップされなかった設定項目だが、実はこの数値のセッティングいかんによって、走行フィーリングはまるで違ったものになるのだ。

高速で走行するRCカーの場合、その速度域に応じイニシャルスピードを上げると、よりスムーズにスロットルワークを行うことができ、無駄の無いコーナリングが可能になる。

それとは逆に数値を下げると、スロットルレバーの動きに対して、スピードの変化量が大きくなりパンチ感あふれるスロットルフィーリングに変化する。メリハリのある加速フィーリングを好むドライバーなら、こちらの設定のほうがマッチングするであろう。

またロッククローリングなど、超低速域を駆使するカテゴリーにおいては、イニシャルスピードを下げると効果的だ。初速時の繊細なスロットルワークに対して、リニアに追従してくれるから、自然の地形での操作性にすぐれた効果を発揮する。

RCカーはフィーリングで走らせるもの。理論だけでがんじがらめになってしまうと、セッティングの迷路に迷い込んでしまうから、とにかく実際に走って体感すること。そうすれば、データだけでは決して得られない、かつてない、リニアな走行性能を手に入れることができる。イニシャルスピードは、数値だけでは計り知れない奥深い世界がある。

KEYENCE
問い合わせ先：キーエンス 06-6379-1191
http://hobby.keyence.co.jp